

令和8年5月26日

生駒市地域公共交通活性化協議会 様

平群町子ども達がつくる未来のまちづくりプラットフォーム

(代表事業者) 一般社団法人くまがしクラブ

代表理事 上田 昌弘

令和8年度 国土交通省「交通空白」解消・デザイン全面展開プロジェクト

「共同化・協業化促進タイプ」に関する生駒市地域公共交通活性化協議会

議案承認についてお願い

平素より当プラットフォーム事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして以下の内容にて議案承認を頂きたく関係書類を添えて申請致します。

記

- 1 事業名 「くまがし mobi 全面展開プロジェクト」
- 2 事業主体 「平群町子ども達がつくる未来のまちづくりプラットフォーム」
一般社団法人 くまがしクラブ・平群町
- 3 運行主体 一般社団法人 くまがしクラブ・平群町社会福祉協議会 (※車両のフル活用)
- 4 運行委託 エヌシーバス株式会社・大和観光交通株式会社
- 5 事業目的 「交通空白」の早期解消に向け平群町および近隣地域の多様な関係者の連携・協働、複数の主体による共同化・協業化を通じた新たな交通サービス（公共ライドシェア）の実証運行により子ども達の移動手段の確保と地域住民のウェルビーイング実現と地域活性化を推進する。
- 6 事業期間 交付決定日～令和9年2月26日
- 7 運行内容 公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）実証運行 ※詳細は添付書面を参照
- 8 運賃 サブスクトライアル800円（4日パス）月額子ども2,000円・おとな3,000円
※但し、「部活動の広域展開」については実証運行期間中は無料とする
- 9 運行範囲 平群町内および近隣広域（平群町・三郷町・安堵町・生駒市（一部のバス停のみ利用））
※広域の主なルートは(起点)平群中学校→信貴山下駅（三郷町）→(終点)安堵中央公園（安堵町）とする
※生駒市は平群町コミュニティバスルートの「くまがし橋西」バス停のみ利用とする
- 10 対象者 地域住民、観光旅客その他の当該地域を来訪する者
※三郷町、安堵町は「部活動の広域展開便」にかかる生徒が対象
※合同練習日や大会等開催日のみ運行
- 11 広報周知 チラシ配布等

(問合せ先) 一般社団法人くまがしクラブ 担当: 喜多、北

奈良県生駒郡平群町福貴72 平群町総合スポーツセンター内

TEL 0745-46-3550 FAX 0745-46-3551

【奈良県、平群町】事業名：くまがしmobi全面展開プロジェクト

共同化・協業化タイプ

事業費

事業全体費用：8,841万円
補助対象経費：8,841万円

事業主体/運行主体

平群町子どもたちがつくる未来のまちづくりプラットフォーム

事業主体：一般社団法人くまがしクラブ、平群町

運行主体：一般社団法人くまがしクラブ、平群町社会福祉協議会

事業背景・目的

令和8年4月から本格的にスタートする部活動の地域展開に伴い、近隣市町村における部活動の人数の減少による、部活動の地域連携（合同部活動）が求められており、近隣市町村から平群町への移動手段の確保が必要となっている。

また、高齢者に対する更なる外出支援や子育て世帯の送迎負担の軽減が必要である一方、道幅が狭く急勾配が多い西山間地区等においては、バス停まで徒歩で向かうことが難しい集落が多数存在し、西山間ルートを行くコミュニティバスのみでは移動手段の確保が難しい状況。

そのため、運行主体の共同化による効率化を図るとともに、空き時間を公共ライドシェアを実施することにより、移動の足を確保する。

事業概要

交通サービス	公共ライドシェア(自家用有償旅客運送)
運行形態	区域運行
法的区分	道路運送法78条2号
運行頻度	月・火・水・木・金・土・日
運賃	サブスクトライアル こども2,000円おとな3,000円
実施内容	平群町内の部活動送迎を中心に行ってきた「くまがしmobi」を、事業実施地域を拡大し、部活動送迎以外の時間帯は地域の足として、くまがしクラブは新たに公共ライドシェアとして運行する。 くまがしクラブと平群町社会福祉協議会の有する車両と運転手を共同化することで、各事業の運行に融通し合い、運行管理をくまがしクラブが一元的に行うことで効率化を図る。
共同化・協業化領域	車両、ドライバー、運行管理業務

運行期間

交付決定後～令和9年2月

事業実施地域



平群町（へぐりちょう）
生駒市（いこまし）
安堵町（あんどうちょう）
三郷町（さんごうちょう）
その他近隣市町村

事業イメージ



部活動の足から地域の足へ。部活動の地域展開に伴うこどもたちの広域部活動（複数市町村の合同部活動：平群町、安堵町、三郷町等）の移動手段の足として「くまがしmobi」を複数市町村をまたぐ形で広域運行
川西スポーツクラブの車両等も活用を検討
道幅が狭く急勾配が多い西山間地区等は「くまがしmobi-mini（ワゴンタイプ）」で運行。朝は子どもたちの登下校の足として、夕方＆週末は部活動の足を中心として、それ以外の日＆時間帯は高齢者をはじめとする地域の足として、社協ワゴン等もフル活用した公共ライドシェアを実施。

見込まれる事業効果

【定性・定量効果】自治体間の境界を超えて運行することにより、それぞれの地域の利用者の利便性が向上。延べ乗車数くまがしmobi（1,200人）、くまがしmobi-mini（1,100人）

【「交通空白」への効果】持続可能な新しい交通ネットワークの構築により、当該エリアの地理的な「交通空白」を解消

【奈良県、平群町】事業名：くまがしmobi全面展開プロジェクト

共同化・協業化タイプ

事業実施体制



